

グローバル化社会に必要な Language Arts の実践

大日向百樹

正会員 CST 代表

(〒305-0032 茨城県つくば市竹園 1-6-2-902-303)

E-mail : cskilltraininng1101@gmail.com

現在の日本社会はグローバル化が進展している。ここ数年留学生は増加し、企業は海外進出を迫られている。従って、海外で勉強や仕事をする人や、或いは国内でより良い成果を得たいと考えている人は柔軟な思考力とコミュニケーション・スキルが必要である。

一方、今の日本では、「以心伝心」「阿吽の呼吸」などの曖昧なコミュニケーション方法が美德とされている。学校の国語教育（didactic instruction 法）では、一つの正解を求める選択式や穴埋め式などの定型的な問題解決に重点が置かれてきたという傾向がある。また、暗記を中心とした授業が行われてきたため、生徒は自ら進んで考える訓練を行う必要がない。その結果、思考力とコミュニケーション・スキルが育たないまま社会人になった学生は、自分の意見をはっきりと表明できず上長の意見に合わせることになる。しかし、グローバル化社会が求めていることは創造的な思考を自らが模索することであり、そのためには実践的なコミュニケーション・スキルが必要になる。このスキルは思考のプロセスを大切に、グローバル・スタンダードである Language Arts（言語技術）を実践することで身につけることができる。

Key words: communication skill, Language Arts, global standard, critical thinking, active learning,

1. はじめに

日本の学校の国語教育は、教師による一方的な講義形式の教育である。教師は生徒に「定型的な問題解決法と暗記」を指導するので、「批判的思考力、自立的思考」は育たない。日本の学校の国語教育は、didactic instruction という形式で行い、以下のようである。

In didactic instruction the teacher directly tells the student what to believe and think about a subject. The students' task is to remember what the teacher said and reproduct it on demand. In its most common form, this mode of teaching falsely assumes that one can dire-

ctly give a person knowledge without that person having to think his or her way to it. 1)

教訓的な教育では、教師は直接生徒にある問題について、何を信じ何を考えるのかを伝える。生徒の務めは先生が言ったことを憶えることと、要求に応じてそれを再生することである。その最もよく見る形は、この誤った教え方は自らの考え方を所持させるのではなく、ある人に直接に知識を与えることができることを当然であると考えていることである。1)

今までの教育法では不十分であると感じていた文部科学省は次のように言及している。

一方、グローバル化の中で世界と向き合うこと

が求められている我が国においては、日本人としての美德やよさを備えつつグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成が求められている。2) そして、日本のこととグローバルなことの双方を相互的に捉えながら、社会の中で自ら問題を発見し解決していくことができるよう、自国と世界の歴史の展開を広い視野から考える力や、思想や思考の多様性の理解、地球規模の諸課題や地域課題を解決し、持続可能な社会づくりにつながる地理的な素養についても身に付けていく必要がある。2)

従って、今までの定型的な問題解決や暗記に基づいた日本の教育法を、グローバル化する社会に対応できる教育方法に変える必要がある。今までは人が持っている知識だけで通用した社会であったが、これからは人が持っている知識、技能、思考力・判断力・表現力等を使って、社会に貢献していかなければならない。また、2020年、文部科学省は世界基準の大学に連なるべく、スーパーグローバル大学の認定と認定校への予算の傾斜配分を決めた。2) 2020年の大学入試問題では、「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協同性」を求める出題方法を採られる。こうした問題についての自分の意見を述べるには、著者が指摘するように、議論や対話を促すアクティブ・ラーニング型授業（後述）や哲学対話が重要である。3)

（アクティブ・ラーニング）とは、文部科学省によって以下のように定義されている。

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。3)

そして、「思考力・判断力・表現力」を育むためのアクティブ・ラーニングの実現には、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケ

ーション能力や多様な観点から考察する能力（クリティカルシンキング）などの育成・習得が求められている。4)

新たな教育法を実現するためには思考力、判断力などの様々な力が必要である。その中で社会人として最も必要なものとして挙げられるのは（クリティカルシンキング）である。（クリティカルシンキング）とは、以下のようなものである。

The ideal of critical thinking is to learn to think for oneself, to gain command over one's thought processes. Intellectual autonomy does not entail willfulness, stubbornness, or rebellion. It entails a commitment to analyzing and evaluating beliefs on the basis of reason and evidence, to question when it is rational to question to believe when it is rational to believe, and to conform when it is rational to conform. 1)

批判的思考が理想とするところは、独自の考えを持つことを学び、自分が考える過程を制御できる力を得ることである。知性の優れた自主性は我が儘、頑固さ、又は、反抗を意味しない。知性の優れた自主性は理由や証拠を根拠とする信念を分析して評価することや、質問することが合理的な時に質問し、信じるのが合理的な時に信じ、従うことが合理的な時に従うことを約束することを意味する。1)

（クリティカルシンキング）はどのように必要であるのか？このような独自の考えを持つ人が育つことが、グローバル化社会が求めている創造的な思考を持つ人材の育成に繋がるからである。従って、グローバル化社会に対応するためには、（クリティカルシンキング）を身に付けることが必要である。

（クリティカルシンキング）はどのように育てたらよいのだろうか？（クリティカルシンキング）を身に付けるためには、（Language

Arts) の訓練が不可欠である。

2. Language Arts とは

(Language Arts) はギリシャのレトリック (The Art of Rhetoric) を起源としており、レトリックはギリシャからヨーロッパに伝わり、更に世界の多くの国々に広まったと言われている。そのため、

(Language Arts) はグローバル・スタンダードの国語教育方法である。従って、グローバル化社会に対応するためには (Language Arts) の訓練が不可欠である。(Language Arts) とは、以下のようなものである。

The field of English language arts consists of the interrelated skills of reading, writing, listening, speaking, viewing, and producing. A text may be spoken, written, or constructed solely of images. There is power in all words, but the written word is forever. Through reading, people connect to eternity and to each other. Readers can transcend the limitations of the immediate, they can empathize with characters from remote time periods and distant countries. Readers can find safety when they are feeling vulnerable and community when they are feeling isolated. Furthermore, readers form powerful bonds with each other as they experience a text and construct meaning together.

Through writing, speaking, and producing visual texts, students can develop their ideas and command attention. They can become agents of social change. They can open doors to new opportunities for themselves and others. When language is used clearly and precisely, it can help to discern what is false and clarify what is true.

The English language arts promote an act-

ive stance in the world. Those who can use language to interrogate reality help to support the free exchange of ideas. They can articulate their ideals and advocate for the realization of those ideals.5)

The English language arts provide skills for lifelong learning. Success in English language arts has a powerful effect on success in other classrooms, other disciplines, and nonacademic aspects of life.5)

英語の言語技術の領域は、読む、書く、聞く、話す、観る、絵を書いたり詩を作るといった創作をするという技術で相互に関連付けられている。あるテキストは語られたり、書かれたり、ただ単にイメージで形作られているかもしれない。すべての言葉には力がみなぎり、しかし、書かれた言葉は永久に残る。読書をすることで、人々は永遠にお互いに結びつき合う。読者は距離と時間の制限を超える。；彼らは遠い昔の離れた国々の人物と共感することができる。読者は自分が攻撃されやすいと感じたり、地域社会から孤立していると思った時にも、安全を感じる事ができる。その上、読者はお互いにテキストを体験しながら、一緒に意味を創り、そして結びつくことができる。

生徒は書いたり、話したり、視覚的なテキストを創作することを通して、自分の考えを発達させ、注意を喚起することができる。彼らは社会が変化を起こす発動者になれる。彼らは自分自身や他の人達の新しい機会をもたらす扉を開けることができる。言語は明瞭に正確に使われると、それは何が間違っているのかをはっきりさせ、何が真実なのかを明らかにする。

英語の言語技術は世界に活発な姿勢をとることを増進する。現実を疑問視するために言語を使える者は、自由な発想の転換を行う事を助けることができる。彼らは自分の発想や主唱を明瞭に表すことができる。5)

英語の言語技術は一生続く学びのためにスキルを提供する。英語の言語技術での成功は、他の授業や

科目や人生における教養以外の面で、成功に向かう力強い影響力を持っている。5)

(Language Arts) は前述の通り、「読む」「聞く」「話す」「書く」「観る」「絵を書いたり詩を作るという創作をする」という技術を有し、それは3つのステージのプロセスに大別される。「インプットの思考」「データ整理の思考」「アウトプットの思考」である。まず「インプットの思考」である。ここでは、目や耳から入る情報を細かく明確に認識する。良く「読む」「聞く」「観る」という、所謂(クリティカルリーディング)の技術を駆使する。次に「データ整理の思考」である。インプットされた情報を整理し、分析・統合し、更に多角的・論理的に考える。所謂(クリティカルシンキング)を行うのである。最後に「アウトプットの思考」である。これは、自分の中で具体的・論理的に作り上げた考えを、伝える相手を意識しながら、情報として明確に伝達することである。「話す」「書く」「絵を書いたり詩を作るという創作をする」という技術がこれに該当する。この3つのステージのプロセスを6W1Hを使いながら有機的・継続的に訓練を繰り返す。そして、(Language Arts) は自分で発想したものを相手に簡潔に伝える技術を向上させることを目標にする。(Language Arts) の訓練を積むことにより、自立して問題解決のできる思考力を持つ人材が育成される。それは、最終的にグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力を持つ人材を育成することになる。

一方、人は様々なコミュニケーション・レベルを有しているため、(Language Arts) を実践する際には、それぞれの参加者のレベルを見極め、3つの段階で対応する。一つ目は基本的な技術を習得させることによりコミュニケーションの効率の向上を図る。二つ目は自発的な発想の発出を促す。最後に創造的思考の創出を促進する。創造的思考とは、自発的に発出された発想に自らの知識や経験を加えることにより、独自の思考を創り出すことである。

このように、グローバル化している日本にとって、グローバル・スタンダードである(Language

Arts) は新しいコミュニケーションの方法として必要である。

3. Language Arts のスキルの紹介

(Language Arts) の主なカリキュラムは以下の通りである。

- ①対話の技術
- ②情報伝達(描写等)
- ③情報分析(絵や文章の分析)
- ④パラグラフ・ライティング
- ⑤事実と意見
- ⑥視点を変える
- ⑦要約の技術

(Language Arts) は前述の3つの全てのステージのプロセスにおいて、参加者のコミュニケーション・レベルに合わせて、これらのカリキュラムを螺旋的、有機的、継続的に実践することにより、参加者のコミュニケーション・レベルを高度化することができる。

4. 現在の展開状況

現在、(Language Arts) は日本のいくつかの企業で研修が行われており、また、学校ではカリキュラムに取り入れられている。さらに、サッカーを始めとするスポーツの現場でコーチに実践されている。そこでは、参加者たちが議論や対話を通じ、自らの考えを深耕しながら、他者の意見から触発された新たな発想に気付いている。そして、その議論や対話を通じて他者の多様な意見に気付き、それを尊重できる様になっている。その結果、他者を尊敬できる姿勢を身につけている。

5. まとめ

日本が現在直面しているグローバル化社会に求められている課題は、創造的な思考を持つ人材の育成である。グローバル化社会に求められている人材の育成のためには、(Language Arts) の実践が必要である。(Language Arts) の実践により、創造的な思考を持ち、自分の意見を自信を持って表明できる人材が育成できる。創造的な思考を持つ人とは、まず他人の話をよく聞き、テキストを深く読むという(クリティカルリーディング)を行う。そして、(クリティカルリーディング)でインプットされた情報を論理的に、分析的に、多角的に考察するという(クリティカルシンキング)を行う。そこから発想された思考に自分の知識や経験を加えることにより、独自の創造的な思考を創造する。そして、どのようにその思考を他者に簡潔に伝える事ができるかを考えた上で、自信を持ってその思想を表明するのである。(Language Arts) の実践により、例えば企業では、会議がスムーズに進行したり、企画書や議事録が簡潔に作成できるようになるなど、仕事の効率化が図られる。これらの良好な効果は人間のコミュニケーションが土台になっているので、(Language Arts) がなければそれらは成立しない。

参考文献

- (1) Richard Poul : CRITICAL THINKING WHAT EVERY REASON NEEDS TO SURVIVE
in a Rapidly Changing World p.645、 p.651
<http://www.criticalthinking.org/pages/richard-paul-anthology/1139>
- (2) 文部科学省：新しい学習指導要領等を目指す姿
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm
- (3) 日本人の苦手な能力を問う「スーパーグローバル大学」入試問題
news.kodansha.co.jp/20160311_b01
- (4) 文部科学省：学習指導要領「いきる力」
第1章 (4) イ 思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実
- (5) English Language Arts: Definition and Responsibility p12、 p13
<http://boardcertifiedteachers.org/sites/default/files/EAYA-ELA.pdf>

?

A REPORT OF THE PRACTICAL TRAINING OF LANGUAGE ARTS REQUIRED IN GROBALIZED SOCIETY

Momoki OHINATA

As the globalization of the current Japanese society is progressing, the education and development of new human resources are required. The traditional Japanese language education at school based on the didactic instruction method, does not help the students to acquire what the globalized society is seeking for. Classes focusing on memorization and answer selection tests system, do not give the students the chance neither of thinking by themselves nor getting the elementary communication skills. Therefore it is urgent to develop human resources who have creative thinking, with the communication skills required to be able to confidently express their own opinions. That is what globalize society is in need for. It is a global standard need. Language Arts are a global standard as well. Introducing Language Arts practice in the language education system or in adults education is the way to nurture the human resources with the creative thinking required for the needs of the globalized society.